

平成28年度 大阪府立大手前高等学校 第2回学校協議会

1 日時 平成28年11月22日(火) 10時00分～12時00分

2 場所 本校校長室

3 内容 説明と協議

① 開会

② 校長挨拶

③ 会長挨拶

④ 委員・出席者紹介

大阪大学大学院理学研究科 准教授 岡村高明氏、
大阪工業大学教務部教育センター 特任教授 兵庫 将夫氏
大阪市立東中学校校長 黒田 光氏
株式会社ベネッセコーポレーション 塚口 浩史氏
本校PTA副会長 羽賀 留美氏

本校校医 高折 和男氏は本日欠席

⑤ 校長より説明

・学校経営計画進捗状況について

学習活動日の活動状況は後期になって参加率下がるものの70%以上が参加しており、今年度から始まったTOEFLの講座も1年50名2年が20名参加している。ボランティア活動も充実しており、課題とされた遅刻者も、本年度から新しい指導方法を取り入れて対応している。学力向上については、スタディサポートや模擬試験を分析し、生徒の三年間の推移を分析した。その中で注目したのが、1年の11月での成績の落ち込みと、2年後期からの上昇カーブというものである。今後データを蓄積する中ではっきりとした形が見えると考えられる。

・授業評価について

本校では、授業アンケートを、目的や意義を若い先生に重点的に伝えたいうえで実施している。学校にとって授業は1丁目1番地（最重要事項）といえるものである。先生方の個人の力量を組織として維持・向上させていく必要があると考えている。アンケートではじき出された満足度の数字のみで判断はできないが、校長の授業見学と合わせてみると、満足度の高い先生に共通していることも浮かび上がった。また、逆のことも同様に浮かび上がった。

⑥ 授業見学

理科 井上教諭による「大気の循環」

英語 上田教諭による「英語表現」★

数学 山本教諭による「虚数」

英語 兼崎教諭による「英文法空欄補充」★

保健 中村教諭による「マインドマップを使った授業」★

★は電子黒板を活用した授業

⑦ 協議（進行 岡村会長）

以下各委員の意見

・大学では「講義」ができなくなった。大学での講義を生かして、後は自分で勉強するのが大学生だったはずが、いまや「授業」「宿題」ということを大学が行っている。授業にはまじめに出るが、座っているだけで中身が全く入っていない学生がいる。

・教科ごと、先生ごとの授業の向上努力も必要だが、満足度が高いだけではいけない。どの時期にどこまで生徒を伸ばすかという到達目標を学校で共有すること、そのためのルーチンを学校で開発することが必要だ。生徒の学力推移が分析できたならば、それを改善するためにどの時期にどんなことを働きかければ改善できるのかも考えなければならない。

・生徒の三年間の学力推移で、一年生の落ち込みの原因は、中学での自信を失うことも大きい。高校は2年後期から上昇するが、大学ではいちど落ち込めば、大学に通わなくなるなど深刻化してゆくことも多い。また、高校に入ってから学習方法を知らないことも落ち込みの理由であろう。

・集中セミナーが生徒のモチベーションアップになっているなら12月ではなく、もう少し早めに行なうのもいいかも。

・2年後期でのクラス替えが、生徒のモチベーションアップにもうまく働いていることはわかった。また、生徒はとにかくよく授業を聞くべきだとも思った。

・大手前は伝統校なのに「前に進んでいる学校」だと感じる。また、ICT活用を進める中で、「プラスオン」で仕事を増やす学校が多い中、負担軽減のためにICT活用を勧めている点も評価できる。

⑧ 校長挨拶

校長になってから、学校の様々なことの「見える化」に取り組んできた。課題がはっきり見えてきた。これからは、見えたものをどのようにして改善するか。具体的な方策を検討し、実行しはじめているが、まだまだ十分でない。府内外を問わず、他校の成功事例を参考に早急に対応していきたい。

⑨ 閉会